

令和 7 年度野々市小学校研究計画

1. 研究主題・副題

自ら学びを進める子

～国語科・算数科の見方・考え方の育成を通して～

2. 主題・副題設定の理由

児童は、教育活動を通して、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりしながら、自ら学びを進める力を培う。この考えの伝え合いの姿は、激しい時代の変化の中で、face to face や ICT 利活用等と多様になっている。

中教審答申（2021）は、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の実現が求められている。変化の激しい世の中をたくましく生き抜いていかななくてはならない子どもたちに、未来を切り拓く「生きる力」を養うために、一人でやりきる「たくましさ」や多様な考えを受け入れる「しなやかさ」を身に付けさせ、自ら学びを進め、深められる子に育てていきたい。

本校では、学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を身に付けた、たくましい子を育てる」ことを目指し、一昨年度は、「ICT じゃぶじゃぶ活用」を合言葉に、様々な教科において児童が 1 人 1 台端末を当たり前使えるような学習活動を模索し、一定の成果が見られた。昨年度は、主題を「子ども一人一人が主役の授業づくり～子どもに学びを委ねる場の工夫～」として、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」の実現を目指し、子どもに委ねる場をもたせる授業の構想を積み重ねた。教職員の様々な試みにより、児童自らが学びの見通しをもち、主体的に学べる手立てを考えることで、意欲をもって主体的に取り組む児童が増えてきた。その一方で、児童によっては思考の方向性がなかなか定まらず、授業の着地点にばらつきが見られ、本時や単元のねらいに到達しきれていないという姿も見られた。その要因は、「子どもが主役の授業」に対して教職員の捉えに差があること、学校全体としての系統性の不十分さであると考え。また、本校の全国学力・学習状況調査の結果からも、学習内容の定着の不十分さや積み重ねの弱さが見られている。全校で確かな学力を身に付けさせていかなければならない。

そのため、今年度は、実践研究の教科を国語科と算数科にしぼり、単元や学年で付けたい力の系統性を明らかにし、教科の見方・考え方を働かせた思考の流れやゴールの姿を具体的に描き、その手立てを考えることを通して、学習の基盤となる資質・能力を育んでいけるように積み上げを図っていきたいと考えた。

そこで、研究主題・副題を「自ら学びを進める子～国語科・算数科の見方・考え方の育成を通して～」と設定した。これまでの学校研究の歩みをふまえ、さらに子どもの主体性を大事にした、子どもが主役の授業づくりを目指し、発展させていきたい。

3. 研究仮説

国語科・算数科の見方・考え方を働かせる授業（①動き出すための課題の設定、②見方・考え方を働かせ、ゴールに向かうための手立ての工夫）を構想できれば、自ら学びを進める子が育つだろう。

4. 研究の重点

重点1 動き出すための課題の設定	※野々市小学校課題事例集参考
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て ・課題設定の工夫 ・導入の工夫 ・環境設定の工夫 	
重点2 見方・考え方を働かせ、ゴールに向かうための手立ての工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合うための手立て ・発問の工夫（中心発問・深めの発問） ・学習用語を用いたまとめ ・活用の場合 ・振り返りの工夫（主に単元・授業の終末） 	

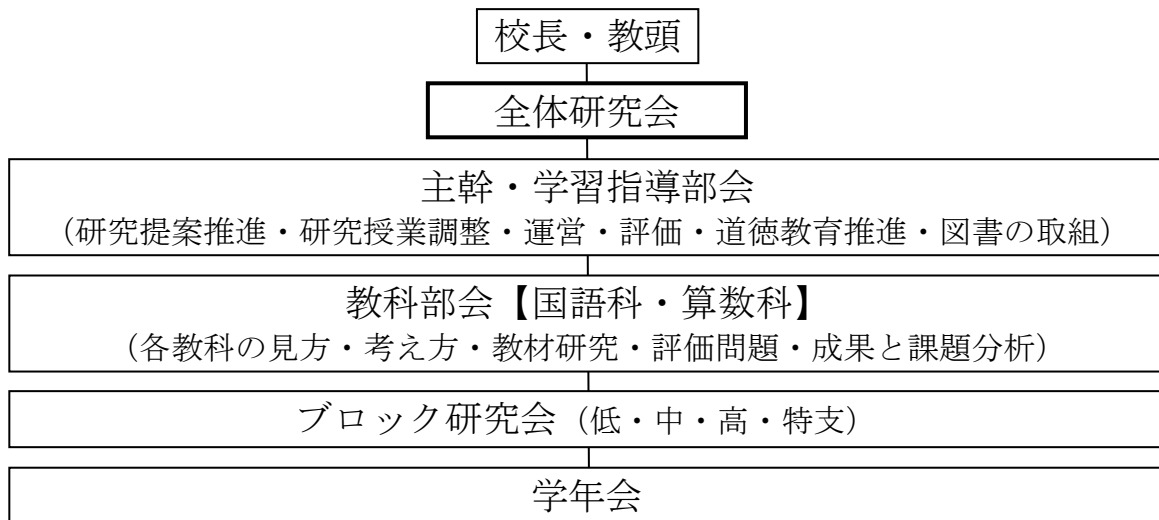
「動き出す姿」とは、児童が自らの学び方を意識し、学習の見通しと課題意識をもって自分の力で学習を深められる姿である。

【重点を通して養う国語科・算数科の見方・考え方】

教科		見方・考え方
国語	「言葉による見方・考え方」	対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること
算数	「数学的な見方・考え方」	事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

5. 研究の進め方

(1) 研究組織について



(2) 研究授業について

- ・ 全員が国語科・算数科の2つの教科部会に分かれて所属する。
- ・ 低・中・高学年、特支ブロック研究会を組織する。
- ・ 級外は、それぞれ担当学年の低・中・高ブロックに所属する。
- ・ 研究授業は各学年で行う。研究授業を行うに当たり、当該単元は学年で同じ指導案をもとに共同実践を行う。級外は、担当の教科とする。
- ・ 低・中・高学年の各ブロックで講師を招聘し、担当教科の全体研究授業を1回（計3回）行う。
- ・ 低・中・高学年の各ブロックで担当教科のブロック研究授業を1回（計3回）行う。
- ・ 学年研究授業を学年で全員が行う。
- ・ 研究授業については、事前研究会・授業参観・事後研究会をもつ。
- ・ 学習指導部は、各全体研究会、各ブロック研究会、学年会の運営を行う。

6. 研究構造図

学校教育目標

確かな学力と豊かな人間性を身につけた、たくましい子を育てる

研究主題

自ら学びを進める子

～国語科・算数科の見方・考え方の育成を通して～

評価・検証

①研究授業・学研究会 ②評価問題 ③学校評価 ④児童アンケート（7月・12月）

教科部会

国語部会

- ①単元で「付けたい力」の吟味
- ②評価問題検討
- ③言語活動の充実
- ④成果と課題分析

算数部会

- ①言葉や数で説明する姿の具体のイメージ
- ②評価問題検討
- ③数学的活動の充実
- ④成果と課題分析

重点1 動き出すための 課題の設定

- ・学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て
- ・課題設定の工夫
- ・導入の工夫
- ・環境設定の工夫

※野々市小学校課題事例集参考

重点2 見方・考え方を働かせ、 ゴールに向かうための 手立ての工夫

- ・伝え合うための手立て
- ・発問の工夫（中心発問・深めの発問）
- ・学習用語を用いたまとめ
- ・活用場
- ・振り返りの工夫（主に単元・授業の終末）

基盤づくり

○学習マナー

- ・返事「はいっ」
- ・チャイムスタート
- ・次の学習の準備

○「話す・聴く・反応する」

- ・聴き方・話し方
- ・反応
- ・ノート

○基礎・基本の定着

- ・漢字
- ・計算
- ・読書

【特別活動部】

- ・自分から進んで活動し、主体的にかかわる場の設定

【特別支援】

- ・児童理解と合理的配慮・全員参加の原則

【生徒指導】

- （1）自己存在感の感受（2）共感的な人間関係の育成

- （3）自己決定の場の提供（4）安心・安全な風土の醸成

7. 具体的な取り組み

(1) 授業の工夫・改善 「野々市小学校 子ども主体の授業づくりメニュー」

重点1 動き出すための課題の設定

※野々市小学校課題事例集参考

- ・学習の見通しをもち、計画を立てるための手立て
- ・課題設定の工夫
- ・導入の工夫
- ・環境設定の工夫

重点2 見方・考え方を働かせ、ゴールに向かうための手立ての工夫

- ・伝え合うための手立て
- ・発問の工夫（中心発問・深めの発問）
- ・学習用語を用いたまとめ
- ・活用の場
- ・振り返りの工夫（主に単元・授業の終末）

展開	あらかると
1 開始時	・身だしなみ（名札・シャツ・スカート） ・姿勢（グー・ペタ・ピン）
2 導入 ◆見通し ◆課題設定 聴く！ 見る！ 意欲的！	<p>重点1 動き出すための課題の設定</p> <p>◆見通し・「身に付く力」や「単元計画・授業計画」の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習と比べる、図表や写真等を見せる、実演する ・何を学ぶかの焦点化 <p>◆課題設定・「～なのに、なのはなぜか」（違いやずれから原因を問う）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～するにはどうすればよいか」（目的から方法を問う） ・「～に気をつけて～しよう」（焦点化する） <p>・話し手の方に注目させる</p> <p>・発表時の教師の率先垂範（聴く姿勢、目線、反応）</p>
3 思考 ◆学習形態 ◆伝え合う ◆深める 委ねる！ 見守る！ 価値付ける！	<p>重点2 見方・考え方を働かせ、ゴールに向かうための手立ての工夫</p> <p>◆学習形態</p> <ul style="list-style-type: none"> □個人思考・視覚情報の提示 ・具体物の操作 ・構造的な板書 □個別最適な学び・方法・ツールの選択 ・立場の決定 <p>◆伝え合う</p> <ul style="list-style-type: none"> □ペア・グループ ・男女だれとでも仲よくする（関係づくり）・体を向け合う <ul style="list-style-type: none"> ・生活班、テーマ別、立場別… ・机と机をしっかりと合わせる（向け合う） □協働的な学び・活動を可視化し、共有する（ICTの活用） <p>◆深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の誤答によるゆさぶり ・ねらいにせまるための問い返し（深めの発問） ・活用問題（調査問題・評価問題の活用） ・適用問題（中心問題と同等かやや易しい問題） <p>・机間指導しながら①考えを価値付ける②考えを拾い、広げる ③考えをなかなかもてていない子に助言や励ましをする</p>
4 高める	<p>重点2 見方・考え方を働かせ、ゴールに向かうための手立ての工夫</p> <p>振り返りの工夫（主に単元・授業の終末）</p> <ul style="list-style-type: none"> □まとめ ・自分の言葉で ・やさしく友達に教えるように □振り返り・「～な力が付きました。」（身に付いた力） <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜかという、～からです。」（どのように学んだか） ・「この力は～に生かせそうです。」（どう生かすか） ・「心に残ったことは～です。」（感動したこと）

これまでの研究
「ICTじゃぶじゃぶ活用」・「子どもに委ねる場の工夫」を活用する



(2) 学習の基盤づくり

これまでの学校評価及び評価問題の分析により、学習に対する構えの指導と知識・技能の習得の充実が求められている。

○学習マナーの徹底

- ・次の学習の準備
- ・チャイムスタート(時間を守る)の取組を生徒指導部と連携して行う。
- ・「はいっ」という返事を徹底する。

○「聴く・話す・反応する」の育成

【話し方・聴き方の指導】【反応するの取り組み】

- ・考えの理由が言えるように、友だちの話を最後まで聴くよう促す。**共感的な人間関係の育成**
- ・聴き方ステップ・反応するの掲示を活用し、反応しながら聴いたり、自分の考えと比べながら聴いたりする聴き方を育てる。**共感的な人間関係の育成**
- ・根拠を明確にし、相手に伝わるような話し方を育てる。**自己存在感の感受**

○基礎・基本の定着

【漢字・計算】

「おはようタイム」の活用

朝の時間を活用して、取り組む。

《国語科》 繰り返し練習することが効果的な言語事項

(ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字・ことわざ・論語・故事成語など)

音読・暗唱・1分間スピーチ・視写・作文など

《算数科》「計算」の学習を中心に行う。

「計算力パワーアップ週間」を毎学期設定し、定期的に計算力の充実を図る。

【読書の習慣化】

- ・読書週間の取組を行い、図書館利用を促す。
- ・ののいち読書ノートを活用して、楽しく読書に親しめるようにする。

【家庭学習の習慣化】

- ・家庭学習の取り組み方がわかるように、家庭学習の手引きを学年ごとに作成・配布する。